

令和7年度第2回第4次子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

1 開催日時

令和7年12月4日（木） 10:00～12:00

岐阜県庁 20階会議室にて開催

2 概要

「第4次子どもかがやきプラン アクションプラン2026（案）」の施策内容について、意見を聴取した。

3 委員から出された主な意見

<政策Ⅰ 多様なニーズに応じた学びを支える環境の整備>

- ・学びを支える環境整備について、アクションプラン2025からの違いが明確になるとより分かりやすくなる。
- ・教室不足という喫緊の課題と支援体制の整備という中長期的なグランドデザインを組み合わせるとよい。
- ・高等特支機能の整備について、子どもたちの力を最大限に引き出すための取組としてほしい。軽度知的障がい生徒の力を最大限伸ばすための教育プログラムの充実が求められている。
- ・医療的ケア児の通学支援について、資源が少なく手配が難しい地域があり、業者に委託し保護者の負担を軽減するのはよいことである。看護師の選定に関しては、保護者の思いもあり、委託業者との連携が重要である。

<政策Ⅱ 多様なニーズに応える学びの場の充実>

- ・交流及び共同学習は、よいシステムである。子どもの年齢が上がるにつれて、熱量や意識の差があるように感じるため、教員や子どもの理解度や質の向上が大切である。
- ・幼少期から多様性を自然に受け入れるためには、交流及び共同学習が不可欠であり、選択制やオンラインなど柔軟な方法での実施が望まれる。
- ・学校間交流及び共同学習は、好事例の紹介に加えて、実施校を増やすような施策が必要である。
- ・交流学习をより充実させるためには、保護者の方からも交流学习に関する要望を学校に伝えていく必要がある。
- ・発達障がいの理解と支援のあり方について、子どもの実態や学校の実情に合わせた指導ができるように、学校が専門家とスムーズに相談できる体制づくりが必要である。
- ・中学校から高校へ個別の教育支援計画が引き継がれなかった生徒について、保護者の意向も含めて要因や理由を丁寧に把握することが大切である。さらに、引き継がれなかった生徒についても情報交換をする場を設け、より良い支援につなげていく必要がある。
- ・高校通級指導について、現在は、特別支援学校籍の教員が主に担当しているが、今後に向けて各学校が指導方法を確立し、校内の体制づくりを構築する必要がある。
- ・高校通級支援の充実は重要である。さらに、不登校のために進学が難しい発達障がいのある子どもへの支援も充実していくべきである。

<政策Ⅲ 学びの場を支える教員の専門性向上>

- ・教員の専門性向上に、学校としても取り組んでいるが、県の事業として近隣の学校同士がユニットを組み、悉皆研修と合わせて互いに授業を見せ合うことは非常によい取組である。
- ・発達障がい支援コア・ティーチャーと特別支援学校のセンター的機能による支援の役割を明確にする必要がある。また、特別支援学級への助言ができる人材の確保も検討すべきである。

<特別支援教育全般について>

- ・子どもかがやきプランやアクションプランを保護者や教員に対して、さらに発信をする必要があり、その過程であらたに課題意識が生まれてくることが期待できる。